

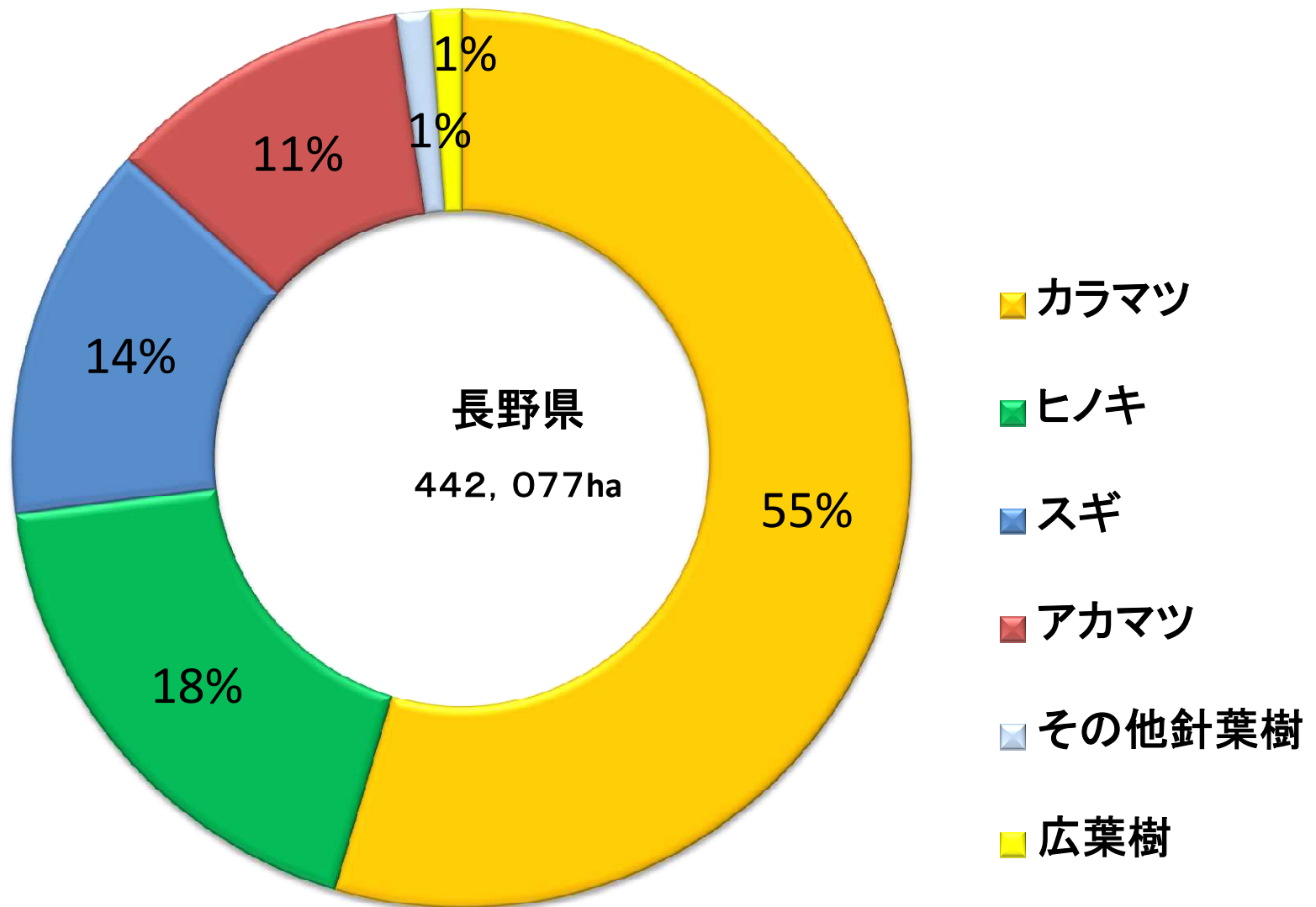
課題1：長野県のカラマツは伐られているか？

－全国のカラマツ生産量と比較して－

カラマツと言えば、信州カラマツと言われる位に長野県はカラマツのイメージが定着している。長野県の人工林のうち 55%はカラマツで、ヒノキの 18%を大きく引き離している。民有林、国有林別でみても、国有林は 61%、民有林は 52%がカラマツである。ヒノキは、国有林 28%、民有林 15%で、国有林のヒノキは、有名な木曽谷に多く分布している。

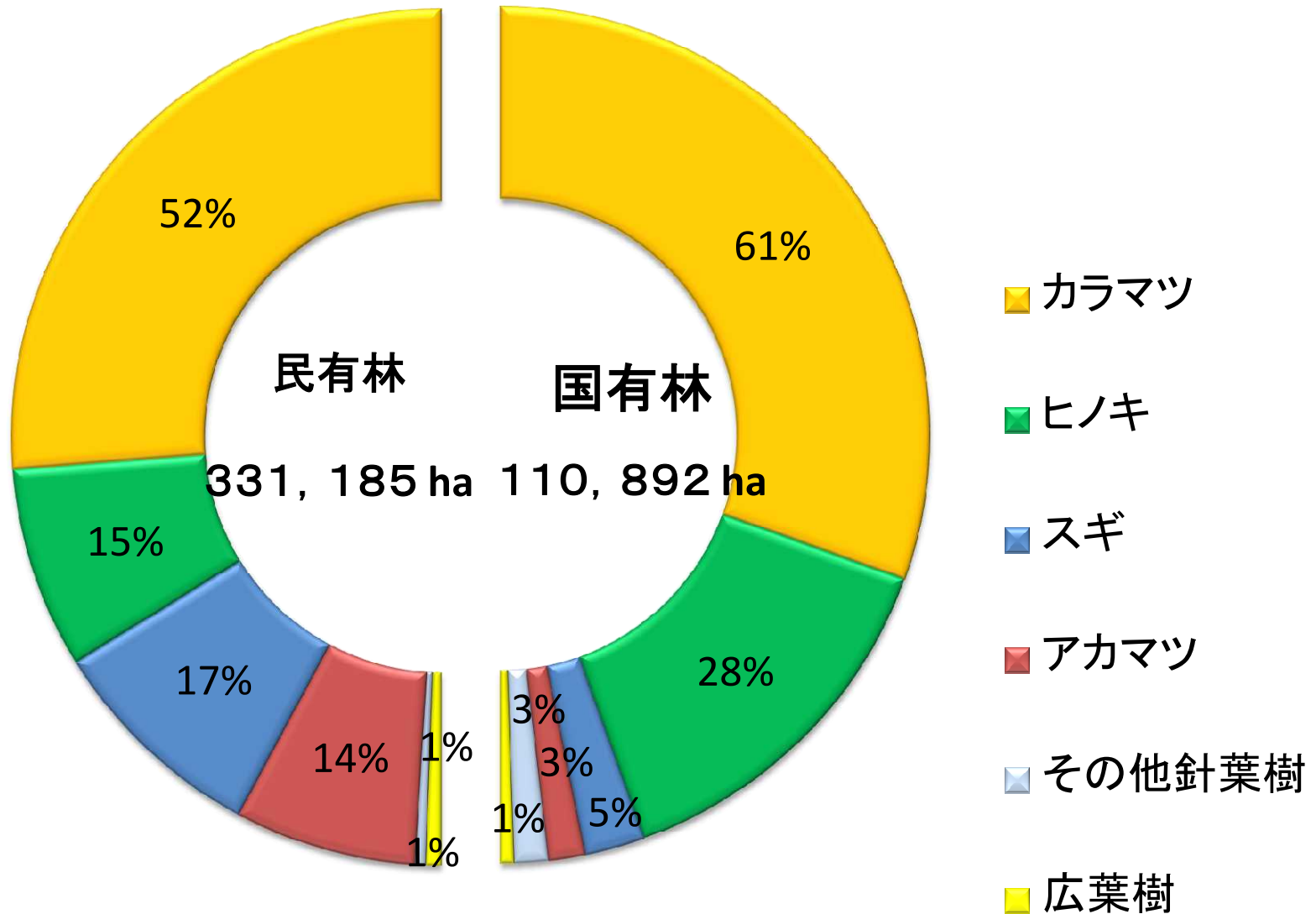
それでは、全国的にみてどうなのかを見てみよう。別紙のとおり、面積では北海道、長野、岩手の順で、全国的に占めるカラマツ人工林の割合は 42%、24%、12%となり、3 県で 78%を占める。蓄積では、同様の順で 42%、26%、11%となり、面積と比例している。若干、長野の比率が高いのは、高齢級材が多いことによる。一方、生産量はというと、北海道 184 万 m^3 、長野 18 万 m^3 、岩手 22 万 m^3 となる。生産量で蓄積で割り算する（カラマツの山にある量のうち、どれ位伐り出されているかを確かめる）そうすると、北海道は 2%、長野は 0.3%、岩手は 0.9%となる。単純に成長する量を見れば（無視することは正しくないが、分かり易くすると）すれば、北海道は 50 年で、岩手は 100 年で伐って無くなるが、長野は 300 年分あることになる。（これは伐り出された量での比較なので、立木から丸太への歩留まりを考慮すると、もう 3～4 割期間は短くなる）カラマツ王国の割には、カラマツは伐られていない。成長途上かということそうではない。全国と同様に 50 年生以上が多く、さすがに 100 年以上の人工材も他に比べれば、はるかに多い。近年、カラマツの生産量の増は合板工場によるところが大きい。長野県には合板工場は立地していないことも影響している。しかし、カラマツ製材工場の数やカラマツ集成材工場の先駆企業始め、カラマツ土木業界、木製サッシ工場等カラマツ産業の裾野は広い。カラマツ生産が 4mが主流の理由はここにある。カラマツの生産量で H16 を 100 とすると H23 の長野は 183 であり、北海道の 121、岩手の 174 となり、伸び率は高くなってきている。品質的にみても、100 年生では 8 万円/ m^3 を初め、2 万円/ m^3 台の丸太も多い。50 年生でも芯が真ん中で、赤身が強く、年輪がちみつである特徴がある。県内全域にカラマツがあり、地域別で見ても、千曲川流域以外の伐採等は更に小さい。流通の基地整備が進めば、循環型で回れる率まで伐られることになると思う。信州カラマツの可能性は高いと思っている。

長野県 人工林面積内訳



資料：長野県「民有林の現況（平成24年4月）」

長野県 国有林・民有林別 人工林面積内訳



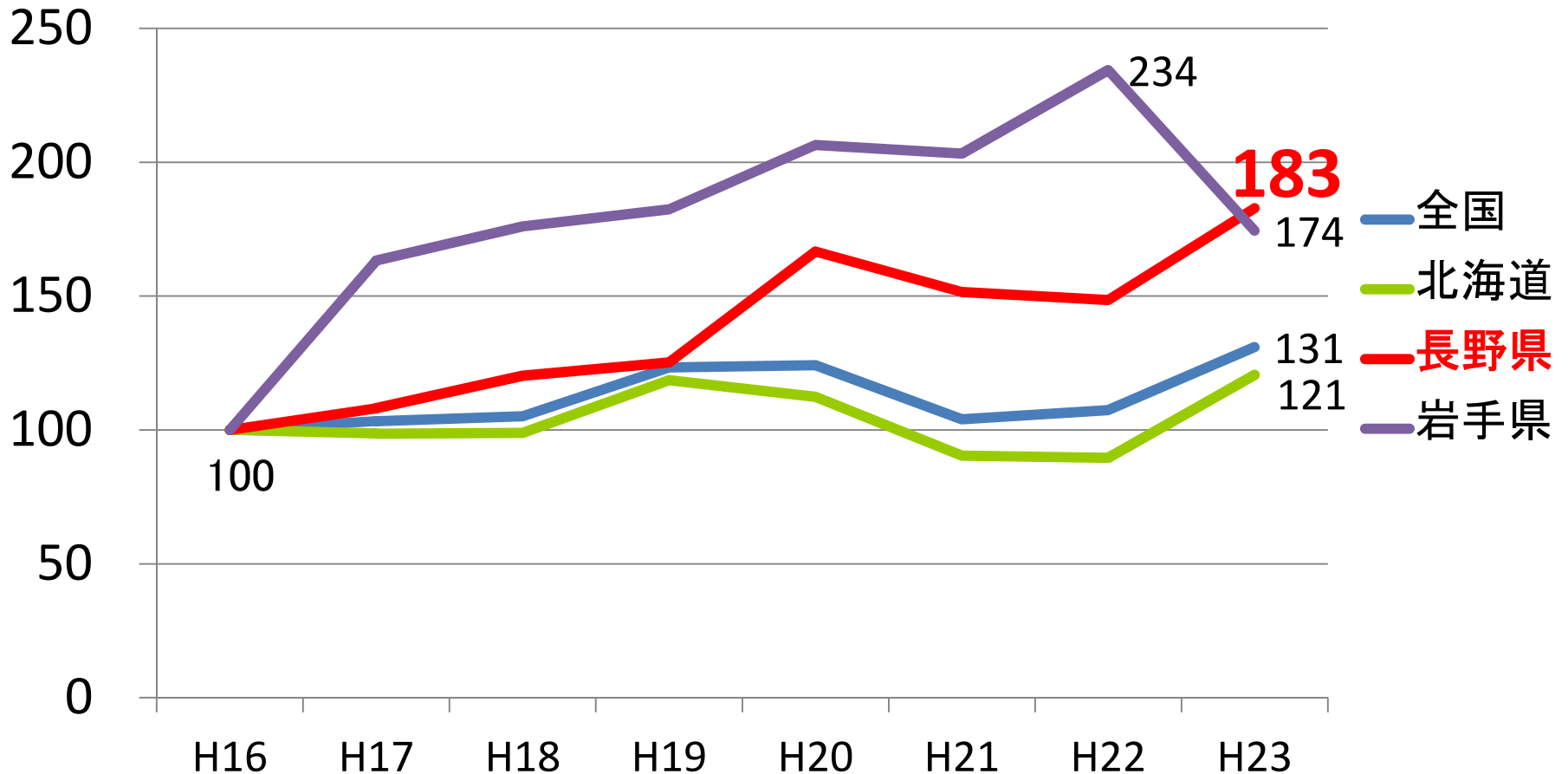
資料：長野県「民有林の現況（平成24年4月）」

カラマツの面積・蓄積・素材生産量(全国)

道県名	面積(全国割合)	蓄積(全国割合)	生産量(蓄積割合)
北海道	42万ha (42%)	93百万m3 (42%)	184万m3(2%)
長野県	24万ha (24%)	57百万m3 (26%)	18万m3(0. 3%)
岩手県	12万ha (12%)	24百万m3 (11%)	22万m3(0. 9%)
群馬県	4万ha (4%)	11百万m3 (5%)	3万m3(0. 3%)
山梨県	4万ha (4%)	9百万m3 (4%)	3万m3(0. 3%)
その他	13万ha (13%)	26百万m3 (12%)	13万m3(0. 5%)
全国計	100万ha(100%)	221百万m3(100%)	242万m3(1. 1%)

カラムツの素材生産量

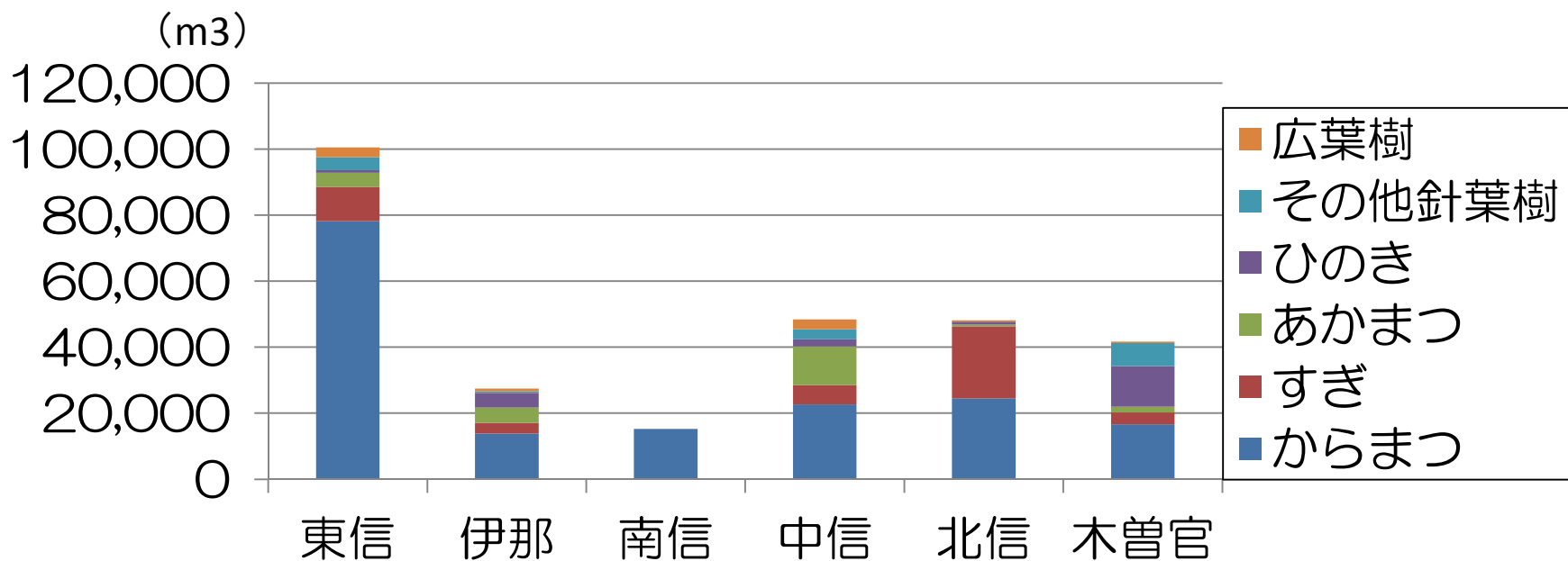
平成16年以降のからまつ生産量の推移
(平成16年を100としたグラフ)



カラマツの面積・蓄積・素材生産量(長野県)

計画区名	面積(県内割合)	蓄積(県内割合)	生産量(蓄積割合)
千曲川上流	6万1千ha (25%)	1,595万m3 (30%)	7.9万m3 (0.5%)
伊那谷	7万6千ha (32%)	1,639万m3 (31%)	3.5 万m3 (0.2%)
木曽谷	2万1千ha (9%)	440万m3 (8%)	1.0万m3 (0.2%)
中部山岳	3万8千ha (16%)	734万m3 (14%)	1.4万m3 (0.2%)
千曲川下流	4万4千ha (18%)	831万m3 (16%)	3.6万m3 (0.4%)
県内計	24万1千ha(100%)	5,240万m3(100%)	17.4万m3 (0.3%)

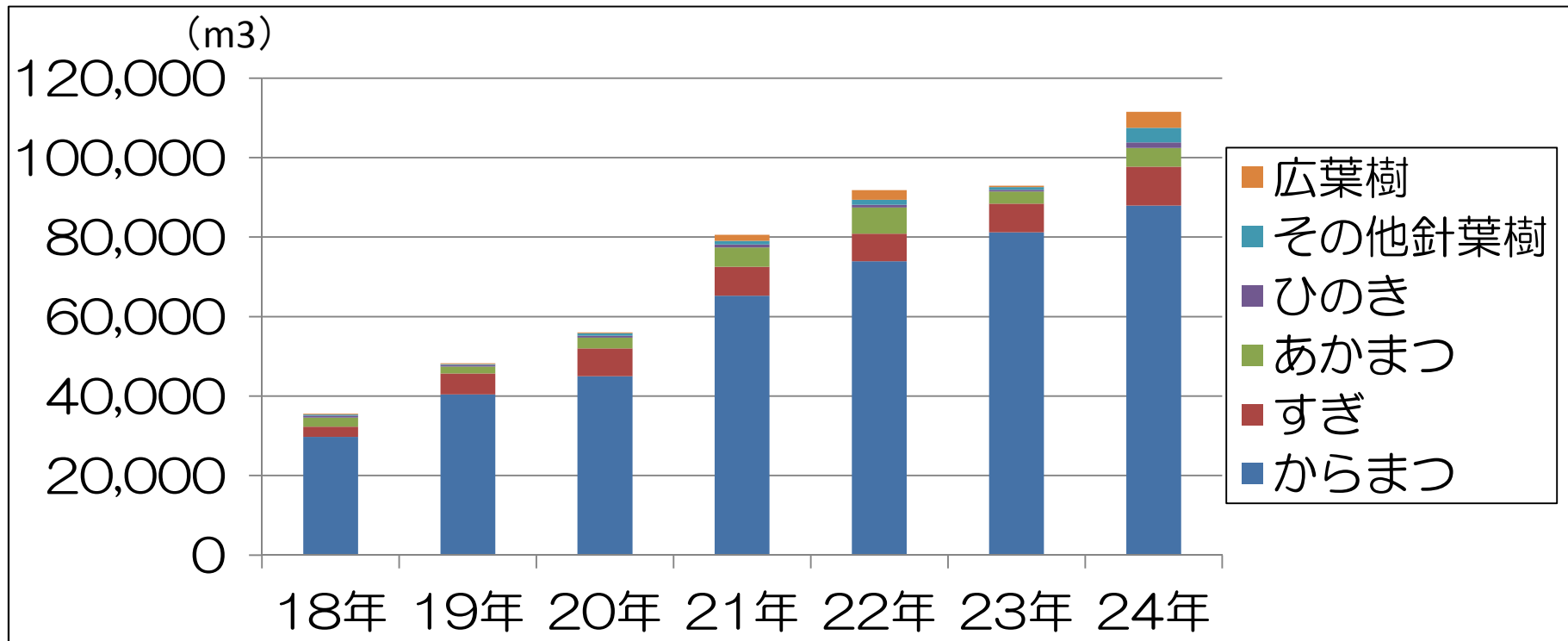
H24長野県内主要木材センター等の樹種別取扱量



	からまつ	すぎ	あかまつ	ひのき	その他針	広葉樹	合計
東 信	78,208	10,380	4,230	849	3,880	2,957	100,504
伊 那	13,830	3,196	4,636	4,513	385	861	27,421
南 信	15,230						15,230
中 信	22,677	5,850	11,639	2,176	3,133	2,911	48,386
北 信	24,481	21,839	521	864	43	417	48,165
木曽官	16,630	3,564	1,743	12,296	6,982	441	41,656
合 計	171,056	44,829	22,769	20,698	14,423	7,587	281,362
比 率	61%	16%	8%	7%	5%	3%	

資料：長野県森林組合連合会、木曽官材市売協同組合

東信木材センターの取扱量の推移



単位: m³

平成年度	からまつ	すぎ	あかまつ	ひのき	その他針	広葉樹	合計
18年	29,723	2,598	2,302	461	259	225	35,568
19年	40,407	5,295	1,727	425	223	210	48,287
20年	45,018	6,979	2,693	500	601	272	56,063
21年	65,288	7,254	4,836	806	888	1,531	80,603
22年	73,928	6,930	6,567	690	1,308	2,406	91,829
23年	81,182	7,253	3,063	367	704	338	92,907
24年	87,932	9,784	4,743	1,347	3,670	4,059	111,535
比率	82%	9%	5%	1%	1%	2%	

資料: 東信木材センター協同組合連合会